

第30回 市長と住民の「こんだん会」  
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～  
松南地区開催報告

日時：令和5年7月19日（水）午後6時～7時30分  
場所：松南地区公民館 3階大会議室  
テーマ：多様性を認め合う 支えあいのまちづくり  
参加者：15名（市長、地域づくり課長、障がい福祉課長、なんぶ未来（ゆめ）まつり実行委員会5名、松本市希望の家2名、学校法人 外語学園 信濃むつみ高等学校4名、松南地区地域づくりセンター長）

【懇談内容】

1 なんぶ未来（ゆめ）まつり実行委員会の取組み

(1) 主な発表内容

ア 松南地区の概要

松南地区は戦前、篠ノ井線の開通と国の軍需産業政策を受けた大規模工場の誘致に端を発し、JR南松松本駅と国道19号を中心に発展してきた比較的新しい地区。

世帯数、人口は2,671世帯、5,412人（R5.5.1現在）、高齢化率は29.3%。

町会数は9町会で内2町会は県の公営住宅団地のみで構成されている。

その他の町会も公営住宅や大型マンションが多くあり、特に芳野町は世帯のおよそ半数を県、市営住宅が占めている状況。

イ 未来まつり開催の経過

松南地区は戦後に発展してきた比較的新しい地区で、神社仏閣もなく、地域を挙げての祭りなどもなかった。そうした中で、ジャスコ南松本店（現在のイオン南松本店）の出店を契機に、地域の絆づくりを目的に、なんぶ未来（ゆめ）まつりを開催。今年で31回目を迎える。

ウ 開催にあたり苦労したこと

当初は全町会からの賛同を得るのが難しく、何度も会合を重ね合意を得た。また、開催時期や場所の検討にも苦労したが、ジャスコ南松本店の全面的な協力や、SBC放送の援助もあり、盛大なお祭りが開催できた。

エ 今後の展望と課題

お祭りを開催することで町会を越えた繋がりができ、子どもから大人、高齢者まで皆が参加し楽しむことができる地区の年中行事として定着した。

課題は近年の物価高による開催経費の高騰、役員の高齢化、次の若い世代の担い手をいかに育てていくかなど。

地域の子どもたちが祭りに参加し、地域の様々な世代の方とふれあい、大人に



なってもお祭りの時期には帰ってきて顔を合わせるような、そんな魅力的なお祭りとして今後も工夫を重ね継続していきたい。

## (2) 意見交換

### 【市長】

あらためてこの松南地区が比較的歴史の新しい街であること、そういう経緯の中から地元とイオン南松本店の皆さんでスタートしたお祭りが 30 回に及ぶということで、松南地区を象徴する取組みだと感じました。

特にコロナにより中断したものをもう一度立ち上げるのは他の地区でもご苦労されていることをお聞きしますが、その点はいかがだったでしょうか。

### 【実行委員長】

特にコロナへの対策として感染防止を一番とし、消毒の徹底や、開催時間も昔は夜 8 時頃まで開催していたものを 6 時まで短縮し、飲食もアルコールを禁止とするなど工夫して開催することができました。

### 【市長】

地元の方々の参加状況はコロナ前に比べ遜色ない状況だったでしょうか。特に子どもや若い世代の参加状況はいかがでしたか。

### 【実行委員長】

3年ぶりの開催ということもあり、開催を待っていた方も多く、コロナ前と同等の参加があったと思います。

### 【市長】

各地区で、コロナで中断したお祭りのものをどう復活させるかということ、コロナの前も、かつてほど地域でお祭りのものを皆で出来にくくなっているところが多くあります。

特に、例えば松本の伝統行事である青山様やぼんぼんといったものは、コロナの前ですら子どもたちの参加がない地区が増えています。そうした中で今回、他地区の「こんだん会」で、中央地区やあるいは島立地区などでも、火が消えそうな青山様やぼんぼんをもう一度、それをシンボルとして、もう少し新しい、時代に合わせた形でのお祭りというか、フェスティバルというか、そういうものをやろうということが、いろいろなところで出てきています。

今まで通りにやろうと思っても出来ないところに、どういう新しい人たちに関わってもらおうかということや、あるいは地区を越えた参加を募るための工夫をどうしようかということが、いろいろな所で取組みが始まっています。

ぜひ、年中行事の一つとしてこれだけ定着をされてきた手作りの夏祭りをこれからも続けていくために、もし変えなければいけないところがあれば変えていただいて、そして先ほど発表にありましたが、お祭りを経験した子どもたちがまた祭りのときには帰ってくるといったようなものを、どう繋げていけるのかということを実践していただきたいと思いました。

### 【実行委員会総括】

松南地区でも、青山様やぼんぼんといった伝統行事がコロナ禍により 2 年、3 年と実施されなかったのが現状です。今年は私の町会でも PTA の皆さんも伝統行事だから大事にしなければいけないという声が上がってきまして、今年は完全復活する予定で

す。また、三九郎などについても同様です。こうした伝統文化が若い人たちに延々と受け継がれていく文化というのは非常に大事なことだと考えているので、若い世代にも途絶えさせないようにしっかり受け継いでいってほしいと思っています。

【市長】

この地区が集合住宅、最近では大型マンションが非常に増えている、これも街中の同じような地域においては、そうした方々に地区の行事に参加してもらうことのハードルの高さということを感じている地区も少なくありません。松南地区の皆さんが、集合住宅だとかマンションに住んでいる子育て世代や子どもたちを巻き込む為に工夫されていることはありますか。

【実行委員会総括】

私の町会のことで言いますと、大型分譲マンションが6棟ございます。分譲マンションを買われた方が町会に加入していただけないという悩みをお聞きしますが、私どもの町会では、マンションの販売業者さんに、購入者に町会へ加入していただけるような案内をしてもらえよう事前をお願いをしました。その結果、6割から7割の世帯の方が町会に入っていておられます。分譲マンションの世帯の方は若い世帯の方が多く、子どもたちもそれなりに増えてくるということで、マンション建設と町会運営がウインウインの関係になっていると思っています。

【市長】

町会の加入というところまでお話をいただきました。

色々な地区を見ていますと、町会の加入までいくのはハードルが高いが、その手前で、こうした地域のお祭りや子どもが主役になるようなイベントにまずは参加してもらうということ、そこまでは顔を出してもらうように工夫し、そこで半歩前にでてもらうというようなことを町会加入につなげていく、そのような取組みが行われているところもあります。

これから共働き、マンションに住んで、もちろん定住される方もいますが、転勤で来られて何年かしたらというような方もあり、住まい方にも多様性が出てくる中で、歴史の新しい街として、皆さんの取組みがほかの地域の皆さんにも参考になることをお伺いしましたので、そうしたことも住民自治局経由で共有していければと思っています。

【司会】

イオン南松本店は地域との関りについて、どのような意識をお持ちですか。

【イオン南松本店店長代理】

先ほど総括さんからウインウインの関係という言葉がありましたが、私共お店も、地域の皆さんにご来店いただくことで従業員の生活が成り立っています。ですから、こういった地域行事にもできるだけ協力をさせていただき、お互いウインウインの関係、お互いが環境のいい方向ということで、今後もお協力させていただきたいと思っております。

【司会】

物価高が悩みとのことでしたが、会計上で苦勞していることはありますか。

【実行委員会会計】

昨年度は、収入・支出の状況で見ますと、なんとかいい状況で開催できましたが、

企業からいただく協賛広告の状況が厳しくなっています。今年は昨年同様の協力をいただきましたが、来年度以降、景気状況によっては今後益々厳しくなってくる事が予想され、開催経費をどう抑えるかということが大きな課題と考えています。

【司 会】

町会の皆さんの意識はどうでしょうか。

【実行委員会事務局長】

町会の皆さんから開催期日や内容について問い合わせを受けており、今年はコロナも落ち着いたので従来の開催方法に近い形で出来そうだとお話しをすると、特に高齢者の皆さんは楽しみにしている様子が伺えます。改めてこのイベントが地域の支えあい、ふれあいのきっかけづくりの場として期待されていると感じますし、子どもたちにとっても、夏休みの楽しい思い出作りになるものとして、青山様やぼんぼんと同様に地域の伝統行事として親しまれていると思います。

【市 長】

前に行われた第三地区のテーマは防災でしたが、第三地区には縣陵や松商、エクセランなど高校がいくつもあります。防災というテーマにおいて、もし大地震があったときに、高校生という存在は支えられる側にもなりうるが支える側にもなれます。

小中学生は住んでいるところの近くの学校に通っているというケースがほとんどですが、高校生は自分が住んでいる場所と学校で過ごす時間があり、学校にいる時間はいろいろな形でその地域の活動に参画をしてもらえると、地域にとっては若い世代の関わりにより活気が満たされます。

今回でいえば、高校生の未来まつりへの何らかの参画ということがあれば、また新しい可能性を見出せるのではないのでしょうか。お金の話もちろん根底で避けては通れない問題ですが、じつはそれ以上に担い手の問題、若い新しい人たちが入ってくるようになるかどうかということは非常に大きな問題で、もし、今までよりも一歩、地元のお祭りに対して、むつみ高校の皆さんの中で関係性を持ってもらえるようなことがあると、非常に明るい話になると思います。

## 2 松本市希望の家とC a f e ポリジの取組み

### (1) 発表の主な内容

#### ア 松本市希望の家の概要

松本市希望の家は松本市社会福祉協議会の障害福祉課にある就労継続支援 B 型事業所で、事業目標は「かけがえのない あなたが そばにいるから 希望が生まれ 希望が叶う」

障がい者の通所による就労や生活活動の機会を提供するとともに、一般就労に必要な知識、能力が高まった者は、一般就労への移行に向けた支援を行う。

利用の対象者は、知的障がい・身体障がい・精神障がい者で、本年度の登録者は 21 名

サービス提供内容は、企業からの受託事業（段ボール抜き、組仕切りなど）や自主事業（手すきはがきの作成、販売など）のほか、喫茶事業として C a f e ポリジを運営

## イ Cafeポリジと地域との関わり



Cafeポリジでは、接客、厨房作業、店内清掃、配達業務、店外販売、イベント運営等を通して、社会参加に向けた就労訓練を行い、地域の方々との交流や協働から「地域で生きる力をつける」ことを目的に活動している。

地域住民の声として、「社協は松南地区の財産であり、ポリジは利用者の自己実現、自己表現の場として、「生きる場」になっている」との言葉をいただいている。地域の方々の笑顔とふれあう場として、令和2年6月より毎月第3水曜日にポ

リジ前芝生広場で「木陰マルシェ」を開催しており、会場設営から撤収まで地域の方々や利用者が力を合わせて行っている。

### (2) 意見交換

#### 【市長】

とりわけ就労支援の事業というのは、先ほど事例として出していただいたような袋詰めなど、どこかあまり一般の人との接点がない中での作業というイメージを持っていましたが、このCafeポリジの手法といいますか空間は、これから生きていくための色々な基本的スキルを身に付けていくために有効であり、なおかつ人と接して直接感謝の気持ちを受け止めていただければ、それは喜びにもつながります。

いま社会は人手不足、労働力不足という社会になっているので、非常に需要の大きな部分のサービス業に皆さんが関わりを持っていくと、自立心と自活力、そうしたものが育まれると思います。

なおかつ地域の人もふらっと立ち寄って地域との垣根もなくなっていく、ほかの地域にも例があるのかわからないが、素晴らしい取組みで、ほかの地区にも広げていきたいと思いました。

#### 【障がい福祉課長】

先日希望の家の様子を見させていただいたが、本当に生き生きとして笑顔あふれる中での働いている姿に微笑ましいと感じました。ポリジも一度は食事をしてみたい場所ですが、なかなかその機会がなく、まだ食事はいただいていませんが、先日伺った際には地区の方が何名か召し上がっていて、とても美味しそうでした。こんな場所があると地域も華やかになっていだろうなと感じました。

先ほど所長さんから、今までは孤立していたという話がありましたが、確かに障がい者のそうした施設は周りが塀で囲まれていたりして、なかなか周りからの目が入りにくい空間だったかと思います。しかし、一步地域に入りたい、そんな思いからの取組みだかと思いますので、今度は地区の方からも障がい者の皆さんの方へ一步、二歩と歩み寄ってもらいたいと思います。その為には、障がいの特性を地域の皆さんに知っていただくということが一番大切ですので、公民館、地域づくりセンターで、障がいの特性を学ぶ講習会などの機会を設けていただき、地域の皆さんで障がいをお持ちの皆さんを支えていただければと思います。

### 【希望の家所長】

先ほど防災キャンプというお話が出ましたが、私たちもここで地震が起きたらどうするかということをよく考えます。松南地区公民館は、障がいを持つ方などの要配慮者も避難ができる避難所になっています。日中活動する中で、どう避難すればいいかということで、避難所になる体育館などに行かせていただいたり、地域を見学させていただいたりしたこともあります。そんなこともさせていただきながら、地域でどうやって生きていくかということを利用者にも理解してもらっています。

また、ポリジは一般のお客さんにも来ていただく所で、障がいをお持ちの方たちがどんな姿で、どんな言葉を発し、どのように仕事をしているのかということを見ただけで、私たちと同じ仲間が仕事をしている、そういうところを体験していただける場所だと思っています。今後とも松南地区の皆さんとは、一緒になって地域を盛り上げていけるような、そんな存在になればと思っています。

## 3 信濃むつみ高等学校と地域の関わり

### (1) 主な発表内容

#### ア 信濃むつみ高等学校の概要

むつみ高校は通信制の学校で、生徒はいろいろな地域から通学しており、今日参加している4名の生徒のうち松本市在住者は1名。

生徒のほとんどが住んでいるのは松南地区ではないが、学校が松南地区にあることから、学校生活において様々な地域との関わりを持たせていただいている。

学校は南松本駅から徒歩5分の場所にあり、生徒数は400人位で、オンラインや実際に登校して学んでいる。施設はそんなに大きくはないので、体育は南部体育館をお借りしている。



#### イ 地域との関わり

8月5、6日に開催する夏の文化祭（Terra Schola Party）に南松本1丁目町会と一緒に夏祭りを企画。そこでは、松南地区の平田里古墳から出土された水鳥の埴輪について学習した成果を発表するコーナーを設置したり、地域の方と一緒にクイズをしたり、お隣の南松本保育園の皆さんに絵を描いていただき展示したりするなど様々な企画を考えている。

もっと地域との関わりを持ちたいと考えており、例えば学校校舎の一階部分を交流スペースにして地域の方も気軽に学校に来ていただければと思う。

#### ウ 松本市の望むこと

学校は17時には閉館になってしまうので、17時以降も地域で学ぶ場所、過ごせる場所があるとうれしい。また、南松本駅の駐輪場に中型バイクも止められるようになるとありがたい。

## (2) 意見交換

### 【市長】

信濃むつみ高等学校の校舎には何度か行ったことがあります。玄関を入ってすぐの所がアリーナのようになっていて、夏の文化祭もそこで様々なイベントが企画されていることと思います。未来まつりとは反対みたいなことになりませんが、もちろん学校の文化祭は生徒の皆さんが主役で楽しめますが、同じように年代の違う地域の方々も敷居をあまり高く感じないで足を運んでもらえたらと思いますので、地域づくりセンターでも周知に協力をお願いします。

2点出された要望については事前にお聞きしていましたので、特に校舎が閉まった後の学習の場については、なんなん広場3階の郷土資料室を、これまでは夏休みなど期間限定で学生の学習室として開放していましたが、今後は常設の学習室としてお使いいただけるようにセンター長とも話をしているため、夏休み以降もここは青少年の居場所、学習室ですと看板を出して利用いただけるようにします。

もう一点、南松本駅駐輪場については、駐輪場なので自転車とそれに類するものということで50ccの原付までは現在駐車可能ですが、少し前に、これを緩和して駐輪場に125cc以下のバイクは停められるように自治体は努めてくださいという国からの通達が来ています。担当課では、松本駅でいうと中条の跨線橋下の駐輪場に令和7年の4月から125cc以下のバイクを停められるスペースを設ける準備をしており、南松本駅の駐輪場についても必要性があるなら検討するとのことでした。

### 【司会】

むつみ高校の皆さんは普段どのような学校生活をおくられていますか。授業は自宅でインターネットにより受講しているのですか。

### 【むつみ高校生徒】

普段は来校して授業を受けています。オンラインではあまり授業は受けていなくて、学校に行って友達と話をしたり、スタッフさんに相談事をしたりしています。

### 【むつみ高校生徒】

普通の高校と違い通信制の高校ということで、個人的な時間が多くあると思っています。自分はバイクに乗るのが趣味で、そのことに没頭したり、学校に行きづらいなと思った時もオンラインで授業が受けられるので、自分らしく過ごせていると感じています。

### 【むつみ高校生徒】

私がこの学校に入った理由は将来の夢のための時間が欲しかったからです。将来美容系の仕事に就きたくて、普通の高校に行って数学とか学ぶよりも、自分が将来のために必要だと思うことを勉強したいと思ってこの学校を選びました。それと、自分のために使える時間がすごくたくさんあるので、自分を見つめなおす時間を持つことができ、周りからも成長したねと言われてもらえましたし、自分の苦手なこと、得意なことを見つけるための時間にもなっています。

また、自分の好きなことをするために、学校に来ない日はアルバイトをしたり、美容の勉強をしたりしていて、自分の自由な時間が多くあることが、自分のためになっていると思っています。

## 【市長】

この学校の目標がテラ・スコラ、地球が学びの場ということで、今の皆さんのお話でも自由な時間をすごく持てるということでした。ぜひその自由な時間を、学校のある周辺の地域の人たちや取組みに自分の身を置いてみるということも、自由な時間が比較のない普通高校の生徒さんたちよりも皆さんにはそのことのチャンスがあると、今日、お話を聞いていて感じました。

ぜひ地域に足を運んでいただいたり、顔を出していただいたりしてもらえると、それぞれ皆さんの没頭したい、やりたいことのエネルギーにも間接的につながっていくのではないかと思いますので、むつみ高校の生徒さんだからこそできる地域とのつながりというものを持っていただけたらと思います。

## 4 傍聴者を交えた意見交換



## 【傍聴者】

まず感想ですが、希望の家は本当にこの地域の希望だと思います。きめ細やかな取組みをされていますし、発信力も高いので、この地域の財産だと思っていますし、大事にしていけないといけないと思います。それと今回初めてむつみ高校の生徒さんとお会いして、新しい出会いと取組みに期待しています。

松南地区はケアのまちづくりということが喫緊の課題だと思っていますし、それについて重層的な取組みが行われていると思います。

センターもそうした地域の動きを繋いでくれているし、地区公民館も、明日は発達障害講座がありますが、ケアの学びの場を提供してくれている。そうした取組みがどんどん出てきていることが大事だと思います。

そうした中で足りないと感じているのは、町会単位でのケアの取組みです。まだまだ町会の体力も十分にはないと感じています。私の町会では町内公民館の建て替えを予定していますが、市では公民館の解体費用についても補助制度があることは大変ありがたいことですが、私の町会はまだ比較的町会の体力があるから建て替えを計画できますが、そうでない町会は改築や建て替えをしたくとも躊躇してしまう現状があります。資材の高騰といったこともあります。町会は自治会なので住民自治という部分は私たちが主体でやるべきことですが、ハード整備などへの行政のサポートは必要で、町会と行政が両輪となって動いていくのが望ましいことと思います。ソフト面では公民館活動への振興業務委託料の増額、あるいは、ハード部分では公民館の建て替え費用について、増額の方向で検討してもらえればありがたい。

## 【市長】

住民自治の館としての公民館の建て替えや改修について、私自身の問題意識として、これまでのデフレの30年間というのは、賃金も上がらなかったが物価も上がらないということから、助成する金額というのはいわば上げなくとも良かったという状況がありました。しかし物価が上がり始め、しかも今まで抑えられていたもの

が様々な反動もあり少しきつい上がり方をしています。我々が基本的に目指すのは緩やかなインフレの社会、物価も上がるがそれに伴い賃金も上がるというものだと思っています。そうすると税収も少し増え、配分するお金、今の公民館の建て替えの助成額も少しずつ増える、こういう状況に入ってきたと思っています。直ちに引き上げますとお約束まではできませんが、問題意識としては公民館の建て替え費用の助成額がずっと1千万円できたものが、少し上積みできないかということは検討課題だと思っています。

もう一つ、ここでご指摘したいのが、松本市に35の地区があり、単位町会が485町会あります。この485の単位町会は、極めて不揃いな485の町会です。不揃いというのは、一番は住民の数が二桁違うぐらいに違います。ですので、この不揃いな町会を同じように住民自治の館としての公民館の建て替えを行っていく必要性が本当にあるのか、もっと言えば私が生まれ育った第一地区でも、今の町会の単位は事実上崩壊しています。子どもは全くいないとか、本来であれば町会の統合をしないと機能不全ですし、ましてやそれぞれが館を持つ必要性は無くなっています。

公民館の建て替えの話と並行して改めて今の町会の単位を見直すべきところは見直して、特にハードの面の重複を避けたりしていくことで本当に必要なところに予算配分ができるようにということも考えていかなければならないと思いますので、併せてお伝えをいたします。

## 5 まとめ

### 【市長】

今日は皆さん大変お疲れ様でした。

今日は私も拝見していきまして、先ほど少しお話が出ましたが、新たな出会いということも、むつみ高校の皆さんもそうですし、すでに動きが始まっている希望の家の皆さんと、地域の皆さんとの繋がりが促進していくような機会にもなったのではないかと思います。

具体的な要望はそれほど多く出ませんが、私たちが松南地区の現状を踏まえてやらなければいけないこと、そうしたことの整理も、今日来ている地域づくり課長、障がい福祉課長にとっても非常に有意義なご意見をいただいたと思います。

冒頭申し上げましたが、松本市には35の地区があり、極めて多様な地区であるということ、回ってみて改めて思っています。それぞれが持っている歴史的な背景や、私たちはこういう「まち」でありたいという思いもそれぞれ異なりますし、だからこそ、すべてというわけにはいきませんが、選択と集中をしながら、まちの良さを最大限に発揮していこうという皆さんの取組みを支えさせていただいています。

そして多様なものが集まって一つのまちを形づくっている松本は、私自身も生まれ育ったまちですが、非常に魅力的なまちだと改めて思います。



そのことの一つの表れが、先週公表となりました日本の都市力評価のランキング、森ビルという東京のデベロッパーが全国の政令指定都市と県庁所在地と 17 万人以上の都市、136 の都市について毎年評価をしているものですが、松本市は今年 8 位となりました。1 位は大阪、2 位が横浜、3 位が名古屋、4 位が福岡、5 位が京都、6 位が神戸、7 位が仙台、全部 100 万都市です。これらに交じって松本は都市としての力がある、魅力があるということで、特に生活居住という分野では 1 位でした。

今日、皆さんからお話があったようなことを、それぞれの地域の皆さんが一つ一つ積み重ねていることの一つの現れだと思いますし、それはしかし、まだまだたくさんの課題も抱えておりますので、またできることを皆さんと一緒に取り組んでいければと思います。

今日は予定の時間を少し過ぎましたし、お疲れのところをお集まりいただきましてありがとうございました。今後も引き続きよろしく願いいたします。